

東芝パッケージエアコン 室外機

据付説明書

形名

ヒートポンプ

ROA-AP404HS
ROA-AP404HSJ
ROA-AP454HS
ROA-AP454HSJ
ROA-AP504HS
ROA-AP504HSJ

ROA-AP404H
ROA-AP404HJ
ROA-AP454H
ROA-AP454HJ
ROA-AP504H
ROA-AP504HJ
ROA-AP564H
ROA-AP564HJ
ROA-AP634H
ROA-AP634HJ
ROA-AP804H

形名

冷房専用

ROA-AP404
ROA-AP404J
ROA-AP454
ROA-AP454J
ROA-AP504
ROA-AP504J
ROA-AP564
ROA-AP564J
ROA-AP634
ROA-AP634J
ROA-AP804

[工事業者様用]

このたびは東芝パッケージ
エアコンをお買い上げいた
だきまして、まことにあり
がとうございました。
据え付けの前に、この説明書
をよくお読みになり正しい据
え付けを行ってください。

お願い

この室外機は新冷媒(R410A)用です。室内ユニットは必ず新冷媒(R410A)用と組み合わせてください。
室内ユニットの据え付けは室内ユニット付属の据付説明書をお読みください。

もくじ

安全上のご注意	2
新冷媒エアコンの据え付けについて ...	3
据え付けの前に	4
据付場所の選定	5
1.据え付けに必要なスペース	6
2.室外機の据え付け	8
3.冷媒配管	9
4.電気配線	13
5.アース工事	14
6.仕上げ	15
7.試運転	15
8.現地対応機能	15
9.故障診断	16
10.お客様への引渡し	16

付属部品

部 品 名	個数	形状	用 途
取扱説明書	1	——	(お客様に必ず渡してください。)
据付説明書	1	本紙	(お客様に必ず渡してください。)
保 証 書	1	——	(お客様に必ず渡してください。)

日本国内専用品
Use only in Japan

安全上のご注意

据付工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ据え付けてください。ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。

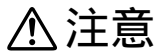
表示と意味は次のようになっています。

表示の説明



警告

「誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があること」を示します。



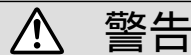
注意

「誤った取扱いをすると、人が¹傷害を負う可能性、²物的損害のみが発生する可能性があること」を示します。

- 1：傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電などをさします。
- 2：物的損害とは、財産・資材の破損にかかわる拡大損害をさします。

据え付け工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。

また、この据付説明書は取扱説明書とともに、お客様で保管いただくように依頼してください。



警告

据え付けは販売店、または専門業者に依頼する
ご自分で据え付け工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。

据え付け工事は、R410A用に製造された専用のツール・配管部材を使用し、この据付説明書に従って確実に行う
使用しているHFC系R410A冷媒は、従来の冷媒に比べ圧力が約1.6倍高くなります。
専用の配管部材を使用しなかったり、据え付けに不備があると破裂・けがの原因になり、また、水漏れや感電・火災の原因になります。

据え付けは、重量に十分耐える所に確実に行う
強度が不足している場合は、ユニットの落下により、けがの原因になります。

台風などの強風、地震に備え、所定の据え付け工事を行う
据え付け工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。

据え付け工事中に冷媒ガスが漏れた場合は、換気を行う
漏れた冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

据え付け終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する
冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

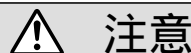
電気工事（アース工事を含む）は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書にしたがって施工し、必ず専用回路を使用する
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。

配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定する
接続や固定が不完全な場合は、火災などの原因になります。

アースを必ず取り付ける
法律によるD種接地工事が必要です。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。

据え付け時、冷凍サイクル内に指定冷媒（R410A）以外のものを混入させない
空気などが混入した場合、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、けがなどの原因になります。

ポンプダウン作業では冷媒配管をはずす前に圧縮機を停止する
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、けがなどの原因になります。



注意

漏電ブレーカを取り付ける
漏電ブレーカが取り付けられていないと感電の原因になることがあります。

可燃性ガスの漏れる恐れのある場所へ設置しない
万一ガスが漏れてユニットの周囲に溜まると、発火の原因になることがあります。

フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締め付ける
フレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になることがあります。

据え付け作業のときは手袋（ ）を着用する
着用しないと部品などにより、けがをする原因になります。（軍手など厚手の手袋）

新冷媒エアコンの据え付けについて

このエアコンはオゾン層を破壊しないHFC系新冷媒(R410A)を採用しています。

R410A冷媒は従来の冷媒に比べ圧力が約1.6倍高くなり、水分・酸化皮膜・油脂などの不純物の影響を受けやすくなります。また、新冷媒の採用に伴い冷凍機油も変更しており、据え付け工事のときに水分・ゴミ・従来の冷媒や冷凍機油などが新冷媒エアコンの冷凍サイクル内に混入しないよう注意が必要です。

冷媒や冷凍機油の混入を防ぐため、本体チャージ口や据え付けツールの接続部分のサイズを従来冷媒用と違えており、下記の新冷媒(R410A)用専用ツールが必要です。

接続配管はクリーンな新品の配管部材を使用し、水分・ゴミを混入させないように施工してください。

既設配管を使用する場合は、9ページの「既設配管対応」の項を参照してください。

必要器材および取り扱い上の注意点

据え付け工事を行うために、下表に示す工具・器材を準備する必要があります。

これらの中で新規に準備する工具・器材は、必ず専用品としてください。

記号の説明 : 新規に準備(R410A専用としてR22・R407Cと使い分けが必要) : 従来工具を流用可

使用する機器	用 途	工具・器材の使い分け
ゲージマニホールド	真空引き冷媒充填	新規に準備、R410A専用
チャージングホース	および運転チェック	新規に準備、R410A専用
チャージングシリンダー	冷媒充填	使用不可(冷媒充填ハカリによること)
ガス漏れ検知器	ガス漏れチェック	新規に準備
真空ポンプ	真空乾燥	逆流防止アダプタを取り付ければ使用可
逆流防止付き真空ポンプ	真空乾燥	R22(現行品)
フレアツール	配管のフレア加工	寸法の調整で使用可
ベンダー	配管の曲げ加工	R22(現行品)
冷媒回収機	冷媒の回収	R410A専用
トルクレンチ	フレアナットの締め付け	12.7, 15.9用は専用
パイプカッター	配管の切断	R22(現行品)
冷媒ポンペ	冷媒充填	R410A専用 識別: 冷媒名記載
溶接機・窒素ポンペ	配管の溶接	R22(現行品)
冷媒充填ハカリ	冷媒充填	R22(現行品)

冷媒配管について

このエアコンの据え付けには、新冷媒対応のフレア方式配管キットを使用してください。

新冷媒(R410A)用配管キットを使用する場合
新冷媒エアコンの発売に伴い、エアコンの据え付けに使用する配管キットには、配管の梱包箱に冷媒種・対応冷媒名・配管肉厚が表示されています。このエアコンの据え付けには、必ず、

冷媒種: 2種、対応冷媒名: R410A

と表示されている配管を使用してください。(適用冷媒種は、配管の断熱材被覆にも約1mごとに記号化して表示してあります。この表示が「」のものを使用してください)

また、フレア加工、フレアナットも新冷媒(R410A)用のものが必要がありますが、この表示のある冷媒配管キットでフレアナットが付き、フレア加工してあるものは、そのまま使用できます。

新冷媒(R410A)用配管キットを使用しない場合

1. 従来の配管キットを使用する場合
適用冷媒種の表示のない従来の配管キットを使用する場合は、必ず、配管肉厚が0.8mmのものを使用してください。従来の配管キットで、配管肉厚が0.7mm以下の薄肉配管は、耐圧強度が不足しますので絶対に使用しないでください。

(つづく)

新冷媒エアコンの据え付けについて（つづき）

2. 一般の銅管を使用する場合

銅管はJIS H 3300「銅および銅合金継目無管」のC1220タイプで、内部の付着油量40mg / 10m以下、配管肉厚は0.8mmのものを使用してください。肉厚0.7mmなどの薄肉配管は、絶対に使用しないでください。

3. フレアナットおよびフレア加工

フレアナット・フレア加工も従来冷媒用と異なります。
フレアナットはエアコン本体付属のもの、またはR410A用を使用してください。
フレア加工は『冷媒配管の接続』の部分をよく読み、加工してください。

据え付けの前に

据え付けの前に次の項目についてご注意願います。

冷媒配管長さ

室内外接続 冷媒配管長さ	注 意 事 項
5m～20m	現地での冷媒追加は不要です。
21～30m	20mを超える配管については 右記の冷媒を追加してください。

能力クラス	1m当たりの冷媒量
AP40～ AP63形	20g
AP80形	40g

冷媒追加充填時の注意

冷媒の追加充填を行う場合は、12ページ「冷媒充填」の項に記載の方法に従って冷媒を充填してください。

* 5m未満の短配管接続は行わないでください。コンプレッサ等の故障の原因となります。

エアパージ

エアパージは真空ポンプを使用して行ってください。

室外機に封入されている冷媒を使ったエアパージは行わないでください。（室外機にはエアパージ用の冷媒は封入してありません。）

電気配線

電源電線、室内外接続線はキャビネットなどに接触しないよう、クランプで必ず固定してください。

試運転

試運転に際しては、起動時の圧縮機保護のため12時間以上前には漏電ブレーカーを投入してください。

正しい作業を行いませんと故障、クレームの原因となりますのでご注意ください。

アースの設置



警告

アース工事が正しくされているか確認する
アースが不完全な場合は、感電の原因になります。確認方法については、据え付けを行った販売店、または据え付け専門業者へ問い合わせください。

アースを取り付けると、万一の感電事故のほか、室外ユニットに内蔵している周波数変換装置（インバーター）の高周波によって室外ユニット表面に電気を帯びるのを防ぎます。アースが取り付けられていないと、室外ユニット表面に触れたとき、電気を感じることがあります。
ノイズを吸収するためにもアースの取り付けは必要です。

据付場所の選定

⚠ 警告

据え付けは、重量に十分耐える所に確実に行う
強度が不足している場合は、ユニットの落下により、けがの原因になります。



⚠ 注意

可燃性ガスの漏れる恐れのある場所へ設置しない
万一ガスが漏れてユニットの周囲に溜まると、発火の原因になることがあります。



下記の条件にあった場所にお客様の了解を得てから
据え付けてください。

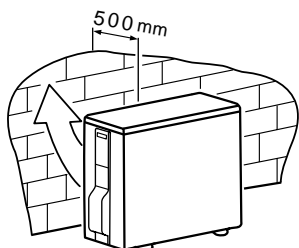
風通しがよく吸込口、吹出口の近くに障害物のない場所
なるべく雨や直射日光のあたらない場所
運転音や振動が増大しない場所
室外機の吹出風や運転音が隣家に迷惑をかけない場所
排水されたドレン水が流れても問題ない場所

以下のような場所は避けてください。

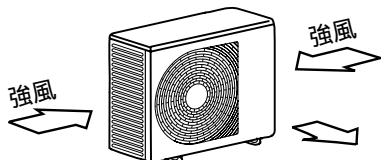
塩分の多い場所（海岸地区）や、硫化ガスの多い場所（温泉地区）
（ご使用の場合は特別な保守が必要です。）
油・蒸気・油煙や腐食性ガスの発生する場所
有機溶剤を使用している場所
高周波を発生する機器（インバータ機器、自家発電機、医療機器、通信機器）がある場所
（エアコンの誤動作や制御の異常やそれら機器へのノイズによる弊害が生じる恐れがあります。）

- 1．ビルの上階・屋上部など常時強風が当たる場所に据え付ける場合は、下記の例を参考に防風措置を行ってください。

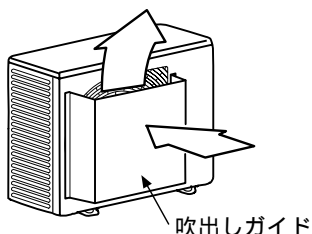
吹出口を建物の壁面に向けて据え付けます。ただし、壁面までは500mm以上としてください。



運転シ・ズン中の風向きを予想して、吹出口と風向きとが直角になるように据え付けます。



前記 の措置がとれない場合は、吹出しガイド（別売品）を取り付けてください。

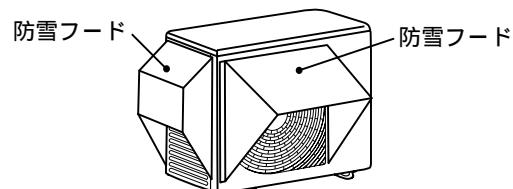


- 2．店頭に室外機を設置し通路側に吹出口がある場合、またはショ・トサ・キットにより熱こもりが起きやすい場合には、別売の風向ガイドを取り付けることにより吹出し方向を変えることができます。

- 3．降雪地区に据え付けの場合は積雪の影響を配慮してください。

基礎を高くするか、架台（積雪以上の高さにしてください）を設置して、その上に据え付けます。

防雪フ・ド（別売品）を取り付けます。

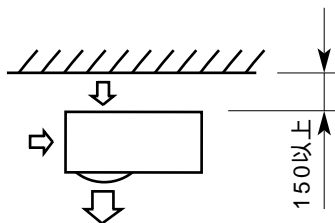


1 据え付けに必要なスペース

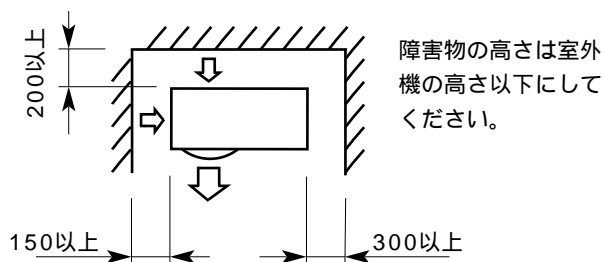
(数値の単位はmm)

背面に障害物がある場合

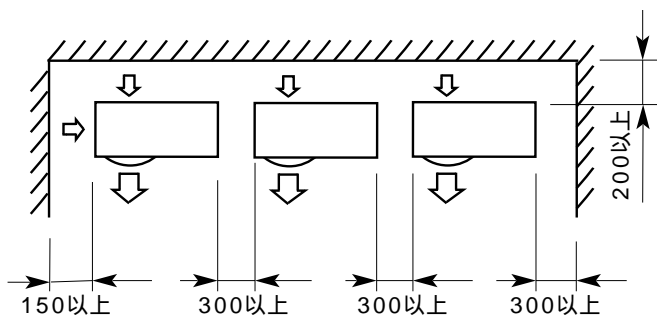
上面が開放の場合
単独設置の場合



両側面に障害物がある場合

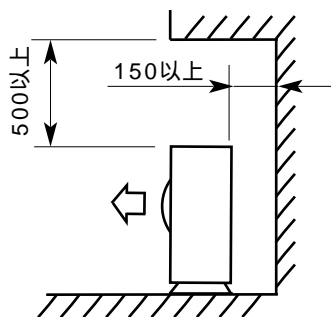


連続設置 (2台以上) の場合



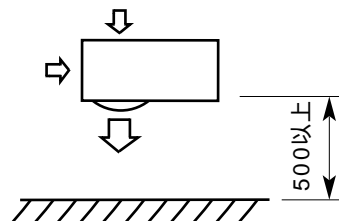
障害物の高さは室外機の高さ以下にしてください。

上面にも障害物がある場合

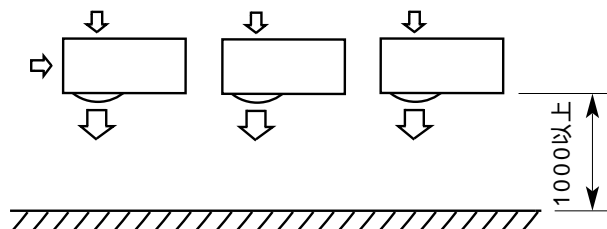


正面に障害物がある場合

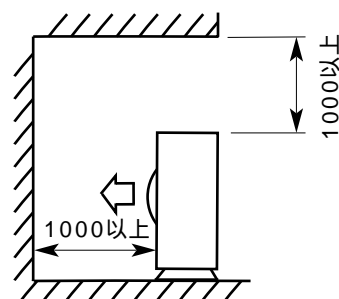
上面が開放の場合
単独設置の場合



連続設置 (2台以上) の場合



上面にも障害物がある場合

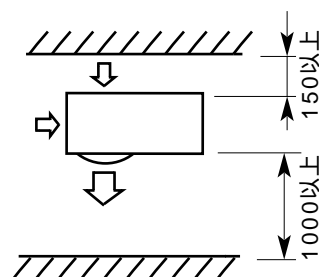


正面・背面に障害物がある場合

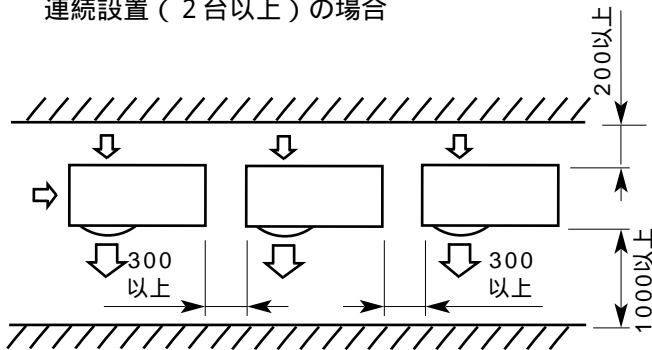
上面、両側面は開放にしてください。正面、背面のどちらか一方の障害物は室外機の高さ以下にしてください。

標準設置の場合

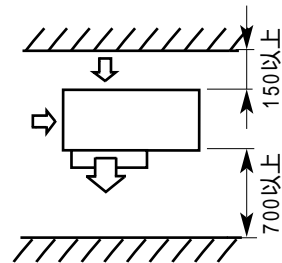
単独設置の場合



連続設置（2台以上）の場合



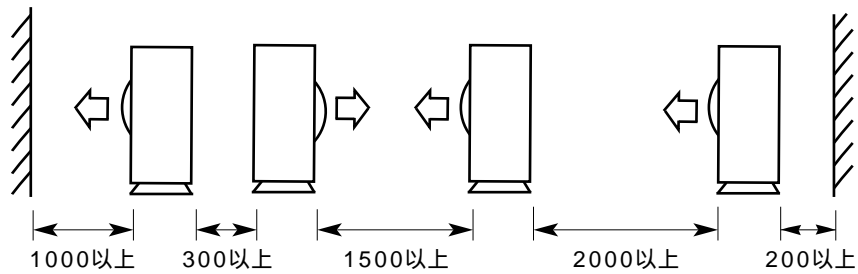
別売の吹出しガイド使用时



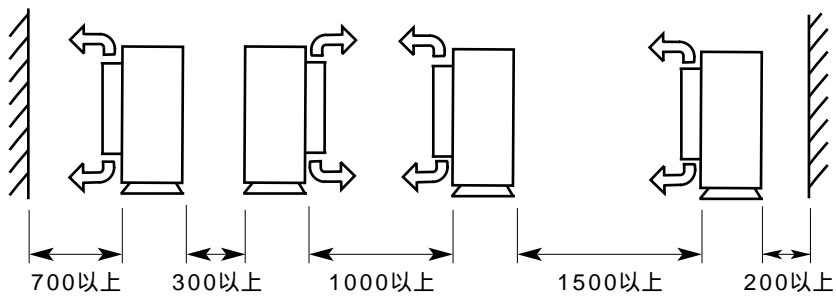
前後連続設置の場合

上面、両側面は開放にしてください。正面、背面のどちらか一方の障害物は室外機の高さ以下にしてください。

標準設置の場合



別売の吹出しガイド使用时



2 室外機の据え付け

警告

据え付けは、重量に十分耐える所に確実に行う
強度が不足している場合は、ユニットの
落下により、けがの原因になります。



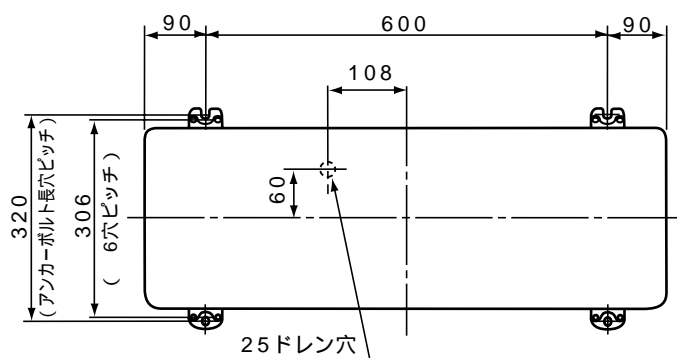
台風などの強風、地震に備え、所定の据え付け工事
を行う
据え付け工事に不備があると、転倒など
による事故の原因になります。



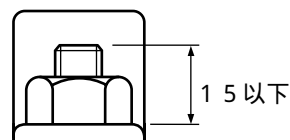
異常音が発生しないよう基礎の強度、水平度を十分確認して据え付けてください。

下図の基礎図にしたがってアンカーボルトで確実に固定してください。

(アンカーボルト、ナット M10×4組)



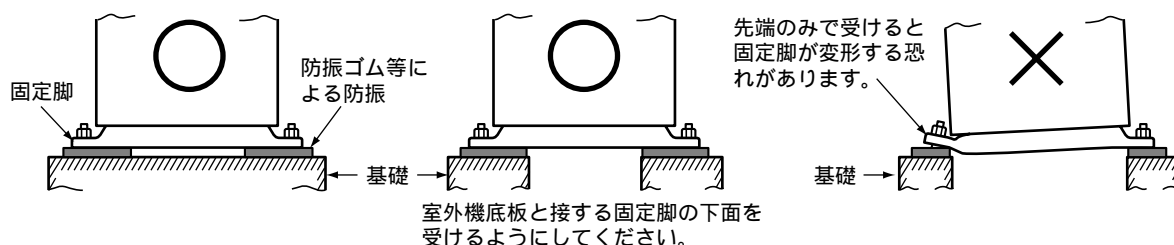
アンカーボルトの出し代は15mm以下
にしてください。



基礎・防振ゴムの取り付けは、下図のように底板と接する固定脚の下面で受けるようにしてください。

配管下取りの場合の基礎については、配管作業性に配慮してください。

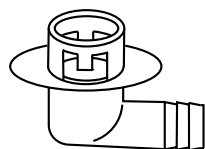
寒冷地区などでドレン凍結防止のため、底板ノックアウト穴を開ける場合（下図参照）の基礎については、ドレンの排水性に配慮してください。



ドレンホースを用いて排水する場合は、下記ドレンニップル、および防水ゴムキャップを取り付け、市販のドレンホース（内径16mm）を使用してください。また、ねじ部はシリコーン材などで確実にシールし、滴下しないようご配慮ください。条件によっては底板に結露し、滴下する恐れがあります。

完全に集中排水する場合は、別売のドレン皿をご用意します。

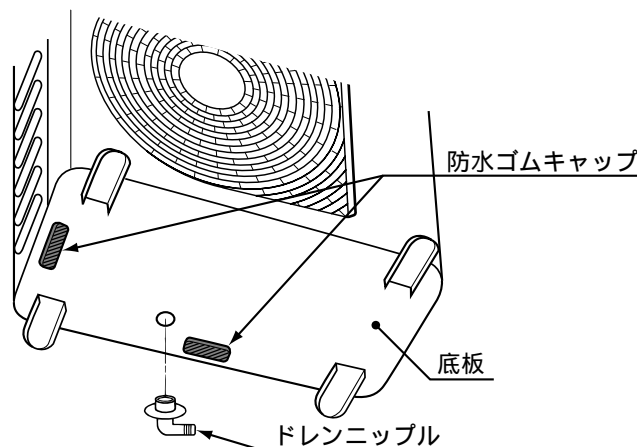
品 名	補修部品コード
ドレンニップル	4 3 0 3 2 4 4 1
防水ゴムキャップ	4 3 0 8 9 1 6 0



ドレンニップル



防水ゴムキャップ



3 冷媒配管

警告

据え付け工事中に冷媒ガスが漏れた場合は、換気を行う
漏れた冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。



据え付け終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する
冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。



配管仕様および冷媒封入量

室外機には工場出荷時に冷媒配管長さ20m分の冷媒を封入してあります。据え付け時の冷媒追加は不要です。

20mを超える配管については
下記の冷媒を追加してください。

能力クラス	1m当たりの冷媒量
AP40～ AP63形	20g
AP80形	40g

冷媒配管の接続

接続配管

能力ランク	液 側		ガ ス 側	
	外 径	肉 厚	外 径	肉 厚
AP40～ AP63形	6.4	0.8mm	12.7	0.8mm
AP80形	9.5	0.8mm	15.9	1.0mm

既設配管対応

既設配管を流用する場合には、下記の点に十分注意、点検を行ってください。

配管の肉厚が規格内で傷やへこみがないこと。

配管内の水分、油の侵入、ゴミなどの侵入

フレアのゆるみ、溶接部の漏れなど

銅管、断熱材の劣化

既設配管流用時の注意項目

フレアは、ガス漏れ防止のため再利用せず、製品に付属のフレアナットに交換して新たにフレア加工してください。

配管内部のクリーン度を保つため、窒素ガスによるブロー等を行ってください。（ブロー等により非常に変色したオイルや多量の残渣物が排出された場合は、配管を洗浄してください。）

現地配管途中に溶接部がある場合、溶接部のガス漏れチェックを行ってください。

下記に該当する配管は流用せず、新規施工してください。

室内ユニットまたは室外機を、長期間配管からはずし開放状態にしていた場合
流用前にR22・R410AまたはR407Cの冷媒を使用していない室外機が接続されていた場合

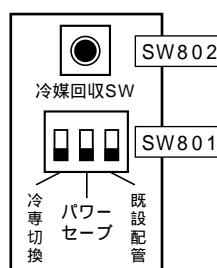
既設配管には、JIS B 8607「一般冷媒配管用銅管の種類・寸法」に規定されているものと同等以上の肉厚が必要です。

基準外径(mm)	肉厚(mm)
9.5	0.8
12.7	0.8
15.9	1.0
19.1	1.0
22.2	1.15

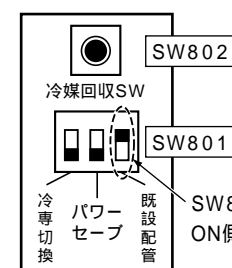
配管肉厚が上記に満たない薄肉配管は、耐圧強度が不足しますので絶対に使用しないでください。

ROA-AP80タイプ

既設配管で 19.1を使用する場合、室外機サブSW基板の既設配管SW（SW801の「ビット3」）をON側にしてください。この場合、暖房時外気温および室内温度によっては暖房能力が低下する場合があります。



（工場出荷時）



（既設配管使用時）

3 冷媒配管 (つづき)

フレア加工

パイプカッターで配管を切断します。

バリは必ず取ってください。(ガス漏れの原因となります)

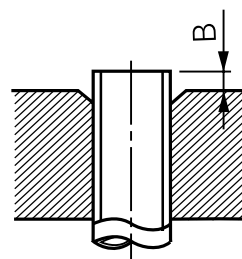
フレアナットを配管に挿入後、フレア加工をします。

フレアナットは本体付属のもの、またはR410A用のものをご使用ください。

R410A用のフレア加工寸法は、従来のR22用とは異なります。R410A用に新規に製作されたフレアツールをおすすめしますが、従来のツールでも次ページの表の通り銅管の出し代を調整すれば、使用できます。

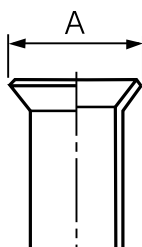
フレア加工の銅管出し代：B (単位：mm)

銅管外径	リジッド (クラッチ式) の場合		インペリアル (ウイングナット) の場合
	R410A用ツール使用時	従来ツール使用時	
6.4 9.5	0 ~ 0.5	1.0 ~ 1.5	1.5 ~ 2.0
12.7 15.9			2.0 ~ 2.5



フレア加工の銅管出し代：A (単位：mm)

銅管外径	A $^{+0}_{-0.4}$
6.4	9.9
9.5	13.2
12.7	16.6
15.9	19.7

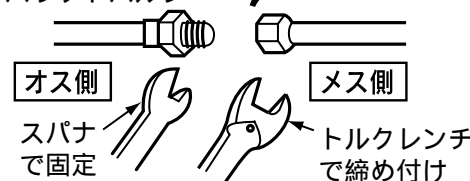


従来のフレアツールを使ってR410A用のフレア加工をする場合は、R22のときより約0.5mm多めに出せば規定のフレア寸法に加工できます。出し代の寸法調整は銅管ゲージを使用すると便利です。

接続部の締付

接続配管の中心を合わせフレアナットを指先で十分締めた後、図のようにスパナで固定し、トルクレンチで締め付けます。

ハーフユニオンまたはバックドバルブ



(単位：N・m)

銅管外径	締付トルク
6.4mm	14 ~ 18 (1.4 ~ 1.8kgf・m)
9.5mm	33 ~ 42 (3.3 ~ 4.2kgf・m)
12.7mm	50 ~ 62 (5.0 ~ 6.2kgf・m)
15.9mm	68 ~ 82 (6.8 ~ 8.2kgf・m)

お願い

トルクをかけ過ぎますと、据付条件によってはナットが割れる場合があります。

R410AはR22に比べ、圧力が約1.6倍高くなります。

従って、室内・室外の各ユニットを接続するフレア配管接続部は、トルクレンチを使用して規定の締め付けトルクで確実に締め付けてください。接続に不備があるとガスリークだけでなく、冷凍サイクル故障の原因にもなります。

フレア面への冷凍機油の塗布は行わないでください。

気密試験

気密試験の前に、ガス側・液側のスピンドルバルブの増し締めを行ってください。

窒素ガスで設計圧力 (4.15MPa) までサービスポートより加圧して気密試験を実施してください。

気密試験終了後、窒素ガスを放出してください。

エアパーシ

4mm・6mm(80クラス)の六角レンチが必要です

このエアコンは下表の接続配管長・落差まで据え付け可能です。

最大接続 配管長(m)	落 差 (m)	
	室外機が上 の場合	室外機が下 の場合
30	30	30

20mを超える配管については
下記の冷媒を追加してください。

能力クラス	1m当たりの冷媒量
AP40～ AP63形	20g
AP80形	40g

据え付け時のエアパーシ（接続配管内の空気の
排出）は、地球環境保護の観点から「真空ポン
プ方式」をお願いします。

地球環境保護のため、フロンガスを大気中に
放出しないでください。

真空ポンプ方式にてセット内の残留空気（室
素等）を除去してください。空気が残留する
と能力低下などをまねくことがあります。

真空ポンプは、ポンプ停止時にポンプ内のオイル
がエアコン配管内に逆流しないよう、逆流防止機
構の付いた真空ポンプを必ず使用してください。
（真空ポンプのオイルがR410A採用のエアコンに混
入すると冷凍サイクルの故障の原因となります。）

真空ポンプ方式

下図の通りチャージホースを接続する
マニホールドバルブ（ハンドルLo、ハンド
ルHi）は全閉

バルブコア（虫ピン）押しの突起が出ている側
の接続口をセットのチャージ口に取り付ける

ハンドルLo全開

真空ポンプを運転し真空引きする（ 1 ）

ガス側パックドバルブのフレア
ナットを少しゆるめエアが入っ
ていくことを確認する。（ 2 ）

再度フレアナットを締める

真空引きを行い、連成計が-101kPa
（-76cmHg）になっていることを確
認する（ 1 ）

ハンドルLo全閉

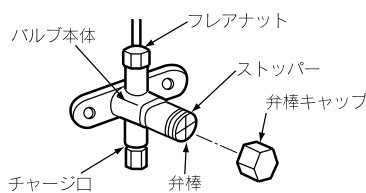
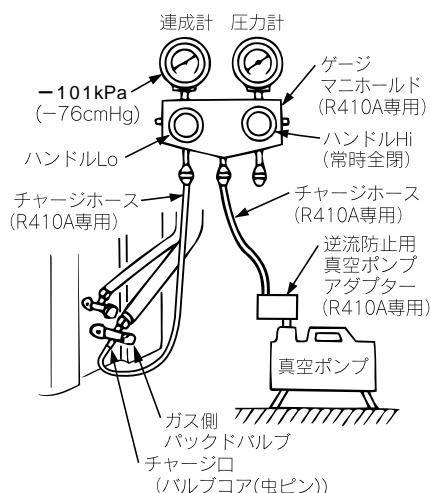
真空ポンプ運転を止める

1～2分間そのままの状態にして連成
計の針が戻らないことを確かめる

パックドバルブの弁棒を全
開にする（液側を全開、次
にガス側を全開）

チャージ口よりチャージホー
スをはずす

パックドバルブとチャージ口
のキャップを確実に締める



パックドバルブ操作上の注意

弁棒は、ストッパーに当たるまであけてく
ださい。それ以上に力を加える必要はあり
ません。

弁棒キャップは、トルクレンチでしっかり
締め付けてください。

弁棒キャップ締め付トルク

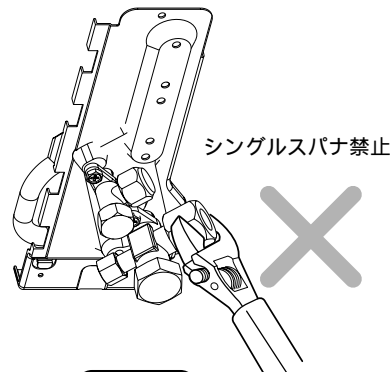
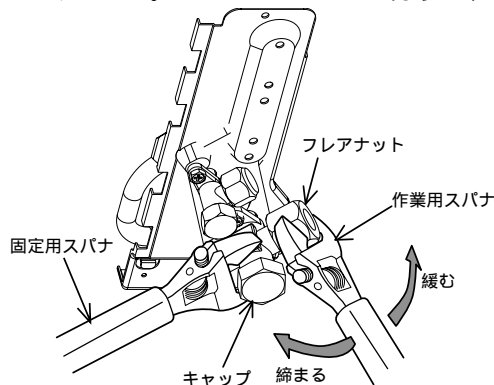
バル ブ サイ ズ	6.4	14～18N・m(1.4～1.8kgf・m)
	9.5	33～42N・m(3.3～4.2kgf・m)
	12.7	33～42N・m(3.3～4.2kgf・m)
	15.9	33～42N・m(3.3～4.2kgf・m)
チャージ口		14～18N・m(1.4～1.8kgf・m)

- 1 真空ポンプ・真空ポンプアダプターおよびゲージマニホールドは、ご使用の前に各ツールに付属の説明書をお読みの上、正しくお使いください。真空ポンプは、油がオイルゲージの指定線まで入っていることを確認してください。
- 2 エアが入っていないときは、チャージホースのバルブコア押しの突起が出ている側が、チャージ口にしっかり接続されているか再確認してください。

3 冷媒配管 (つづき)

80クラスの高ガス側バルブの締付

80クラスの高ガス側バルブのフレアナットは、バルブ固定板の変形を防止するため下図のように必ずダブルスパナで行ってください。シングルスパナで行うと、必要な締付けトルクでの締め付けができません。



	銅管外径	フレアナット締付けトルク (N・m)
液側	9.5mm	33 ~ 42 (3.3 ~ 4.2kgf・m)
ガス側	15.9mm	68 ~ 82 (6.8 ~ 8.2kgf・m)

お願い

誤ってフレアナットを過大に締め付けるとバルブのシール部が変形する恐れがありますので、左記締め付けトルクを守ってください。

バルブ操作後、キャップをしない状態で長時間放置しますと冷媒が漏れますので、キャップを開けたまま放置しないでください。

冷媒充填

冷媒配管合計長が20mを超える場合は、1m当たり20g冷媒を追加してください。80クラスは、1m当たり40g冷媒を追加してください。

配管合計長は最長で30mとしてください。(最大追加冷媒量：200g、80クラスは400g) 細心の注意を払い、精度よく行ってください。

過充填 (オーバーチャージ) はコンプレッサ故障の重大な原因となります。

配管長が20m以下の場合、冷媒を減らす必要はありません。

お願い

<フロン回収破壊法による冷媒充填量記入のお願い>
設置工事時の追加冷媒量、総冷媒量および設置時に冷媒を充填した事業者名を配線図表示板の冷媒記録欄に記入してください。

総冷媒量は、出荷時の冷媒量と設置時の追加冷媒量の合計値を記入してください。出荷時の冷媒量は「装置銘板」に記載された冷媒量です。

冷媒充填作業手順

冷媒配管の真空引き完了後、バルブを閉じ運転しない状態で冷媒を充填します。

規定量が充填できない場合は、冷房運転をしながらガス側バルブのチャージポートより残りの冷媒を追加します。

冷媒充填時のお願い

冷媒は、液の状態で充填してください。

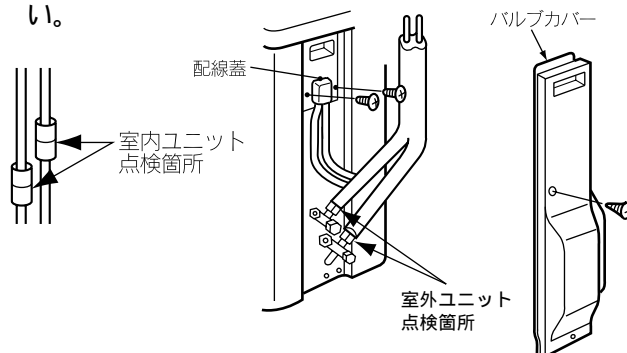
ガス状態で充填すると冷媒の組織が変わり正常運転できません。

ガス漏れ検査

R410Aには、HFC冷媒 (R410A、R134aなど) 専用に製作されたリークデテクタを使用してください。

従来のHCFC冷媒 (R22など) 用リークデテクタは、HFC冷媒に対する感度が約1/40に低下するため使用できません。

R410AはR22に対して圧力が約1.6倍となります。据え付け工事が確実に実施されないと、運転中の圧力上昇時などにガスリークの原因となりますので、配管接続部のリークテストを確実に実施してください。



4 電気配線

⚠ 警告

電気工事（アース工事を含む）は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書にしたがって施工し、必ず専用回路を使用する電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。



配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定する
接続や固定が不完全な場合は、火災などの原因になります。



アースを必ず取り付ける
法律によるD種接地工事が必要です。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。



⚠ 注意

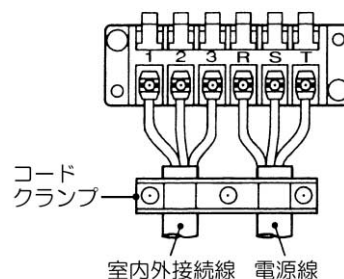
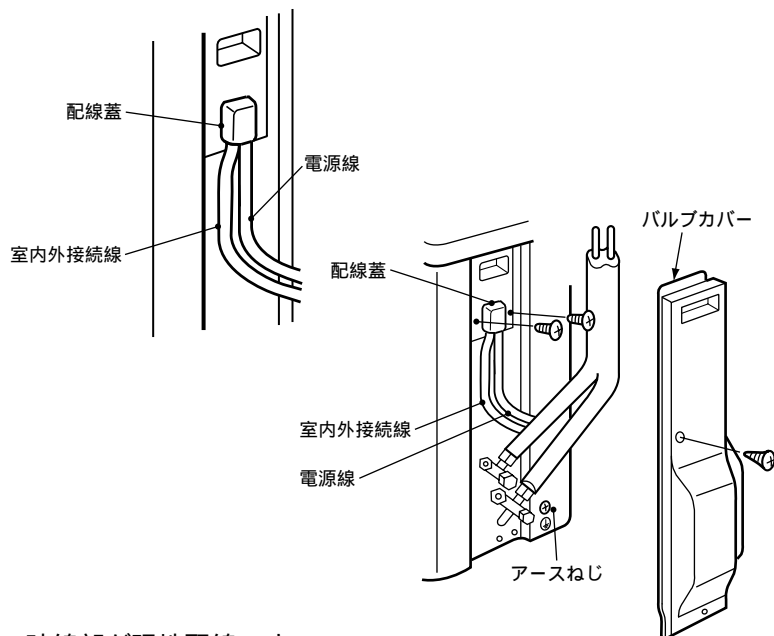
漏電ブレーカーを取り付ける
漏電ブレーカーが取り付けられていないと感電の原因になることがあります。



1. 所轄の電力会社の規定および電気設備技術基準にしたがって行ってください。
2. 電源の配線は電気工事士の資格がないとできません。

ユニット間の配線

電源線と室内外接続線を下図のように分けてください。

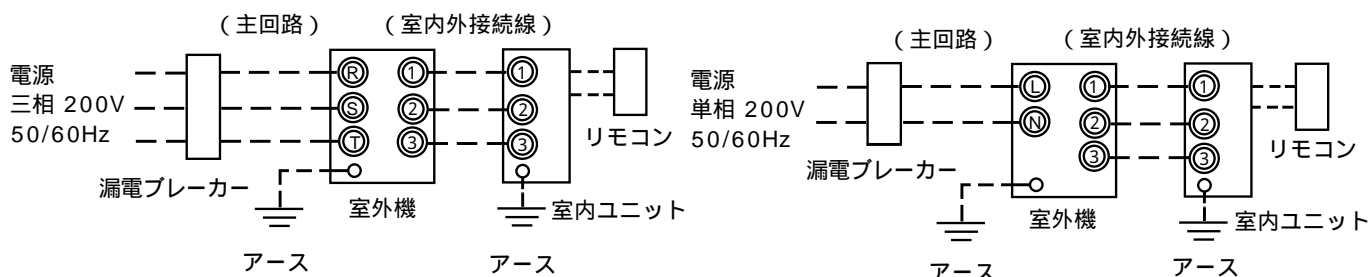


電源線と室内外接続線は下記皮ムキ長さを守って必ず二重被覆部分をコードクランプでしっかり固定してください。
火災や発火の原因になることがあります。

皮 ム キ 長 さ 単位(mm)

室内外接続線	電源線	
	三 相	単 相

破線部が現地配線です。



室外機の配線蓋を取りはずします。
室内ユニットと室外機との接続配線は必ず端子番号を合わせて接続してください。
接続を正しく行いませんと故障の原因となります。

4 電気配線 (つづき)

電源仕様

電源 200V 50/60Hz	能力ランク	主 回 路					室内外 接続線	室内外 接続線	アース線	リモコン 渡り配線径
		漏電ブレーカー容量	手元開閉器		電源電線(電線管)		線径	線長		
			容量	ヒューズ	20m以下	50m以下				
単相	AP40～AP50 HSJを除く	15A, 30mA,0.1sec以下	15A	15A	2.0mm	-	1.6mm	50m以下	1.6mm	0.5～2mm ²
	AP40～AP50HSJ			15A	3.5mm ²	-				
	AP56～AP63									
三相	AP40～AP50 HSを除く	15A, 30mA,0.1sec以下	15A	10A	1.6mm	2.0mm	1.6mm	70m以下	1.6mm	0.5～2mm ²
	AP40～AP50HS			10A	1.6mm	5.5mm ²				
	AP56～AP63									
	AP80			15A	2.0mm	5.5mm ²				

既設配線対応

既設配線を流用時の確認事項

流用する配線、リモコン線、電源設備など(電源線、配線用遮断器など)にキズ及び劣化などがないこと。
室内、室外の渡り配線と対地間を500Vメガ - で測定して100M 以上あること。
配線用遮断器は、高調波対応品であること。(製造メーカーに確認してください。)

お願い

既設配線を流用する場合は、下記の点に十分注意、点検を行ってください。

室内、室外渡り配線は、制御線、電源線兼用方式です。室内、室外渡り配線には、200Vが印加されます。従って、電源線径の選定は内線規定に従って配線用遮断器の容量に応じた線径としてください。シールド線等の通信線は、室内、室外の渡り配線に使用できません。リモコン配線径が0.3mm²の場合は、200mまで使用できます。

5 アース工事

アース工事は「電気設備に関する技術基準」に従って実施してください。万一の感電事故を防止するほかに、このエアコンは室外ユニットに周波数変換装置(インバーター)を内蔵していますので、高周波による室外ユニット表面などへの帯電やノイズを吸収するためにもアースが必要です。アースがない場合、帯電した室外ユニット表面に手を触れると電気を感じることがあります。

接地の基準

接地の基準はエアコンの電源電圧および設置場所により異なります。

下表により接地工事を行ってください。

電源 の条件	エアコン の種類	エアコン 設置場所	水気のある場所 に設置する場合	湿気のある場所 に設置する場合	乾燥した場所に設置する場合
対地電圧が150V 以下の場合	100Vの機種 (含単相3線式 200Vの機種)			D種接地工事が 必要です。(注⑧)	D種接地工事は法的には除外されていますが安全のため接地工事をしてください。(注⑨)
対地電圧が150V をこえる場合	3相200Vの機種 (含単相2線式 200Vの機種)		漏電しゃ断器を取り付けさらにD種接地工事が 必要です。(注⑧)		

室外または室内ユニットのどちらか一方のアース端子より、接地工事を行ってください。

重要事項

次のようなものにアース線を接続すると危険ですので、絶対に行わないでください。

水道管・ガス管・避雷針
や電話のアース線

D種接地工事について(注⑧)

接地工事は電気工事士の方が行ってください。
接地抵抗は100 以下であることを確認してください。ただし漏電しゃ断器を取り付けた場合は500 以下であることを確認してください。
乾燥した場所に設置する場合(注⑨)
接地抵抗は100 以下になるようにしてください。
最悪でも250 以下であることを確認してください。

お願い

アース工事を行う際には、電源プラグを抜いた状態で実施してください。
漏電ブレーカが働く場合は衝撃波不動作形の漏電ブレーカに交換してください。
漏電警報器が働く場合は漏電警報器の設定を変更してください。

6 仕上げ

冷媒配管、ユニット間の配線およびドレン配管が完了したら、仕上げテープを巻き、市販の支持金具などで壁に固定してください。

電源電線や室内外接続線は、ガス側のバルブや断熱材のない配管に接触しないようにしてください。

7 試運転

起動時の圧縮機保護のため、運転開始の12時間以上前には漏電ブレーカーを投入してください。
室外機のパルプが「開」になっていることを確認してください。
運転手順は室内ユニットの取扱説明書にしたがってください。

8 現地対応機能

夜間低騒音運転

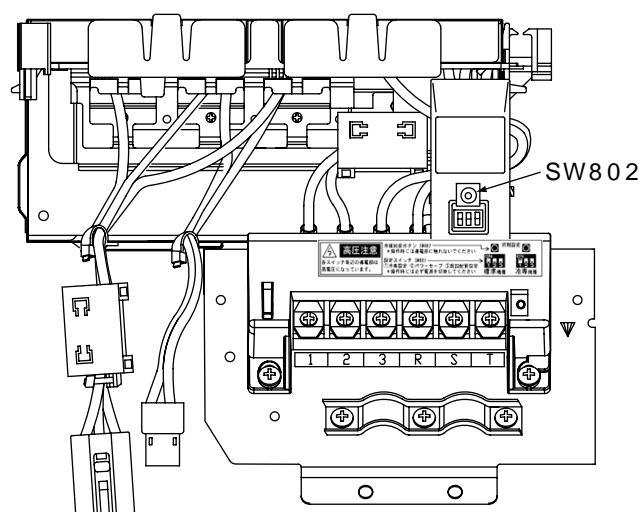
市販タイマー（現地手配）と別売部品「室外機応用制御キット（TCB-PCOS1）」を接続することにより、夜間低騒音運転ができます。詳しくは、別売部品「室外機応用制御キット」の説明書を参照してください。
能力セーブ運転により夜間の運転音が、約5dB低減します。
外気温度条件等により能力が不足することがあります。

冷媒回収方法

室内ユニットまたは室外機の移設等で冷媒を回収する場合は、室外機の端子板の上に冷媒回収スイッチSW802がありますのでご利用ください。

作業手順

電源を入れます。
リモコンで室内ユニットを送風運転にします。
室外機端子板上にある冷媒回収スイッチSW802を2秒以上押すと強制冷房運転（最大10分間）が行われますので、バルブ操作により冷媒回収を行います。
冷媒回収完了後、バルブを閉止するとともにSW802を2秒以上押し、運転を停止します。
電源を切ります。





9 故障診断

室内リモコンによる点検コードで室外機の故障診断ができます。室内リモコンの点検コードは室内ユニットの据付説明書をご覧ください。

別売品「室外機応用制御キット(TCB-PCOS1)」のLED表示でも室外機の故障診断ができます。詳しくは「室外機応用制御キット」の説明書をご覧ください。

10 お客様への引渡し

「保証書」「取扱説明書」「据付説明書」を必ずお客様に渡してください。

保証書には必ず所定事項（印箇所）をご記入のうえお客様に渡してください。

「取扱説明書」の内容を十分ご説明のうえ引渡しをお願いします。

暖房シーズンは外気温が低くなると圧縮機保護のため200V電源から圧縮機に通電され、予熱するようになっていきますのでシーズン中はブレーカーを入れたまま使用されるよう、十分ご説明のうえお客様に引渡してください。

（この場合の消費電力は10～30Wです。）

東芝キャリア株式会社

〒416-8521 静岡県富士市蓼原336番地

SN:EH99854801-